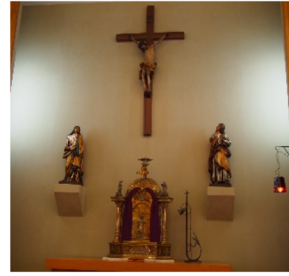


# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第20号 ご復活の主日（2021年4月4日）発行



## ご復活おめでとうございます！

プポ・アルフォンソ神父



コロナウイルスが地球の隅々にまで広がってから、一年以上過ぎて、まだ感染拡大が収まらないまま、二回目の復活祭を迎えました。

コロナ禍と関連する様々な問題について何か言い加えたいつもりではありませんが、一年二か月の間、毎日、コロナのことばかり、朝から晩までマスメディアから聞かされてきましたからです。コロナ禍で、私たち生きている環境などがどの程度変わっていくか解らない中でも、私たちは危険がなく

なるのをただ待つだけなら、教皇フランシスコの言葉を借りて言えば、良い機会を逃してしまうことになります。かえって、この時こそ、ご復活、過ぎ越しの精神をもって過ごすべきではないかと思えます。暗いトンネルに閉じ込められているような気持ちで、何にもしないで出口の光が見えるのを待っているだけ、そのような消極的な態度を置いて、この時こそ、私たちはイエスの弟子として、希望の光を周りの人々に放つものになりたいと思っています。

「過ぎ越し」という言葉は、聖書の出エジプト記に由来しています。神がエジプトで奴隷とされていたイスラエル人を解放すると約束したのです。エジプトを出る準備をしていたイスラエル人は、自分たちの家の戸口に小羊の血で印をつけるよう指示を受けました。神の天使はエジプト人の長子に死をもたらす一方で、印のついたイスラエル人の家族に害をあてず過ぎ越ししていったのです。

死の暗闇を通して命の光を放つ復活の主は私たちの間を通り過ぎます。それは、立ち去って私たちを置いておくためではなく、世の終わりまで私たちと一緒にいるためです。これは、主が私たちに示したように、私たちが主の言葉、つまりお互いを愛し、仕えるという言葉を受け入れ、行う時に。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。」（ヨハネ 3,14）

過ぎ越しの意味をよく表す私の好きな一説があります。「わたしたちは、自分が死から命へ移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。愛することのない者は、死にとどまったままです。」(ヨハネの手紙一 3,14)

蘇られた主の平和が皆様と皆様のご家族の上に豊かにとどまりますように！



## 「今は恵みの時、今は救いの日」

### 援助修道会

小さきイエスのレゾア 橋本 晶子

ある忘れられない幼少期の思い出があります。私が幼稚園に通ったのは、現在の釧路教会が建つ前の古い教会の頃でした。1階に教室があり、2階に聖堂があったように記憶しています。この教会の建て直しの時期には、幼稚園で度々お祈りを捧げました。壊される寂しさと同時に、新しさへの希望を感じた感覚は、幼いながら深く心に刻まれていたのだと思います。

その後も父や祖母の死を大切に受けとめていただいた釧路教会は、いつも死をとおして復活にいたる希望を思い起こさせてくださる、心のよりどころでもあります。

さて、私の所属する修道会は「煉獄援助修道会」(通称：援助修道会)と申します。亡くなられた方々は勿論、日々の過ぎ越しをとおして清めに向かっていこうとする人々が、永遠のいのちを開かれていくように、私たちは奉仕を捧げております。

この私の召命の原点は、北海道の厳しい大地の中で生命を見つめ、教会共同体の中で「いのち」を育てていただいたことにあると

感じております。

このたび、終生誓願宣立のお恵みをいただきました。新型コロナウイルスの影響により、集えない中での静かな誓願式ミサでしたが、みなさまの祈りに包まれ、天上と地上が一つとなり祝福されていると心から感じることで誓願式となりました。

神さまが招いてくださった道を生涯歩んでいくことができますようにどうぞこれからもお祈りください。みなさまが希望に満ちた復活祭を迎えられますよう、広島の地で心を合わせております。



2020年12月5日

東京市ヶ谷 援助修道会にて

## 戸田神父様を偲んで

マリア・ベルナデッタ 久志 テイ子

2013年3月30日の復活祭の主日にわたしは釧路カトリック教会の第1453番目の洗礼を受けました。戸田神父様が釧路に来られてから2年が過ぎていました。随分前のような気がしていましたが、まだ8年たらずしか過ぎていません。その4、5年前からミサに与り、アンナ会の当番などにも入らせていただいていたので、信者でなくても別段、不便にも感じていませんでした。

洗礼を受ける2年程前から、つまり戸田神父様が釧路に来られた頃から水曜日に行われていた「聖書に親しむ集い」のような会に何となく都合がつくときに参加して数人の信者さんと一緒に戸田神父様のお話を聞くようになりました。

その集いは必ず始めにカトリック聖歌を歌うのですが、いつも歌詞を用意して下さいました。聖歌などあまり聞いたり、歌ったりなどしませんので、大変でしたが、少しずつ歌詞の内容を理解しながら、歌うことができるようになりました。戸田神父様はいつも上手に歌われるので、とても感心しました。また、同じように始めに「洗礼志願者の祈り」や「聖霊への祈り」なども朗読していました。

そうして続けて通っているとある日、戸田神父様から、そろそろ洗礼を受けてもいいのではないかと提案をいただきました。信者になるつもりでその会に参加していたつもりではありませんでしたが、その時初めて心構



えが生まれた気がしました。戸田神父様からのその一言がなければ、わたしはまだ洗礼を受けずにいたかもしれません。そうしてついに洗礼を受けることになったのです。

洗礼名は「ベルナデッタ」としていましたが、戸田神父様はマリアをつけて「マリア・ベルナデッタ」にしたらいいと言ってくだったので、そのようにしました。

あの洗礼を受けた日からわたしは釧路カ

トリック教会の共同体の一員となったのだと思いました。戸田神父様は翌年2014年に旭川へ移動なさいましたから、わたしは勝手にわたしが洗礼を受ける事が出来る

ように釧路に来て下さったと思いました。わたしにとっては特に印象深い3年間でした。

旭川は、夏は暑く冬は寒く厳しいところで、すからいつもお便りなどで体調についてお尋ねしていました。戸田神父様は昨年12月25日のご降誕の前日に天国に召されました。お亡くなりになる前の日に甘いものが食べたいと言われてお菓子を召し上がったと聞きました。もう少し釧路でお話を聞きたかったと、今更ながら淋しい思いをしています。今は天国に帰られ神様に迎えられているので安心していきます。どうぞゆっくり天国を楽しんでください。

心よりご冥福をお祈りいたします。



## 渡辺神父様叙階 50 周年おめでとうございます

2021 年 3 月 13 日にヘルマン渡辺義行神父様の叙階 50 周年の記念ミサが、アントニオ修道院で行われ、たくさんの方々と祝いました。神父様、これからもご指導、よろしくお願い致します。



### 転入のお知らせ

昨年 11 月、札幌の円山教会から「マリア小野寺友子さん」が転入されました。

ご本人から“コロナ禍になってから釧路に来ましたので皆さんとの交流が難しいのが残念です。でもこの状況下だからこそ、これまで以上に神聖な気持ちで感謝の思いを実感しながらごミサに与らせていただいています。今は子供を授かっており、今後積極的に教会に携わっていく事が難しくなってしまうと思います。お役に立てず心苦しく感じておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。”とコメントをいただきました。感謝！



### 編集後記

四旬節に入り、私の好きな季節がやって来た。日の出が早くなり、朝起きて電気をつけてよくなる。雪解けが進み、グチャグチャした地面が渴いてくる。回心の印として灰を額に受け、新たな気持ちで復活を待ち望む。長い冬の終わりに希望をもって祈るとき、春の気配に心が躍り、わくわくしてくる。ご復活おめでとうございます。(K.K)

カトリック釧路教会 <https://kushiro-catholic.cloud-line.com/>

〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会